



牛形屋のい

いよ〜周〜

干草

湖東長濱

齋藤



ナニカブラ

アヲカラマ

葎ハ

葎ハ

葉ハ

葉ハ

洛

里ト

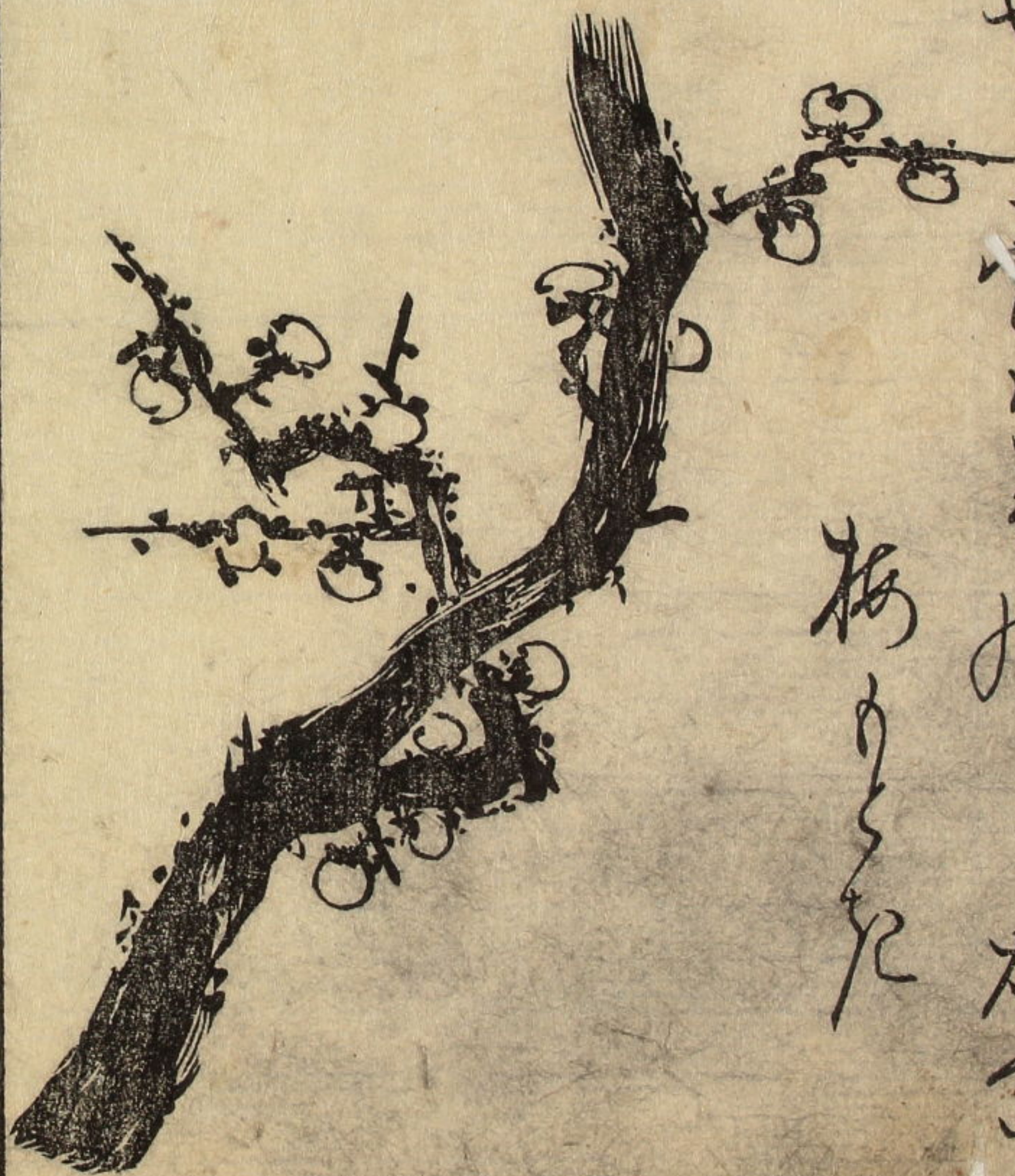


紅梅ハ

梅ハ

加葉

湖東長湊女



火繩火此

散て死

花躰濁

一浮

東武永我庵



積心

編

驚

之

能此

留此

秋田溪

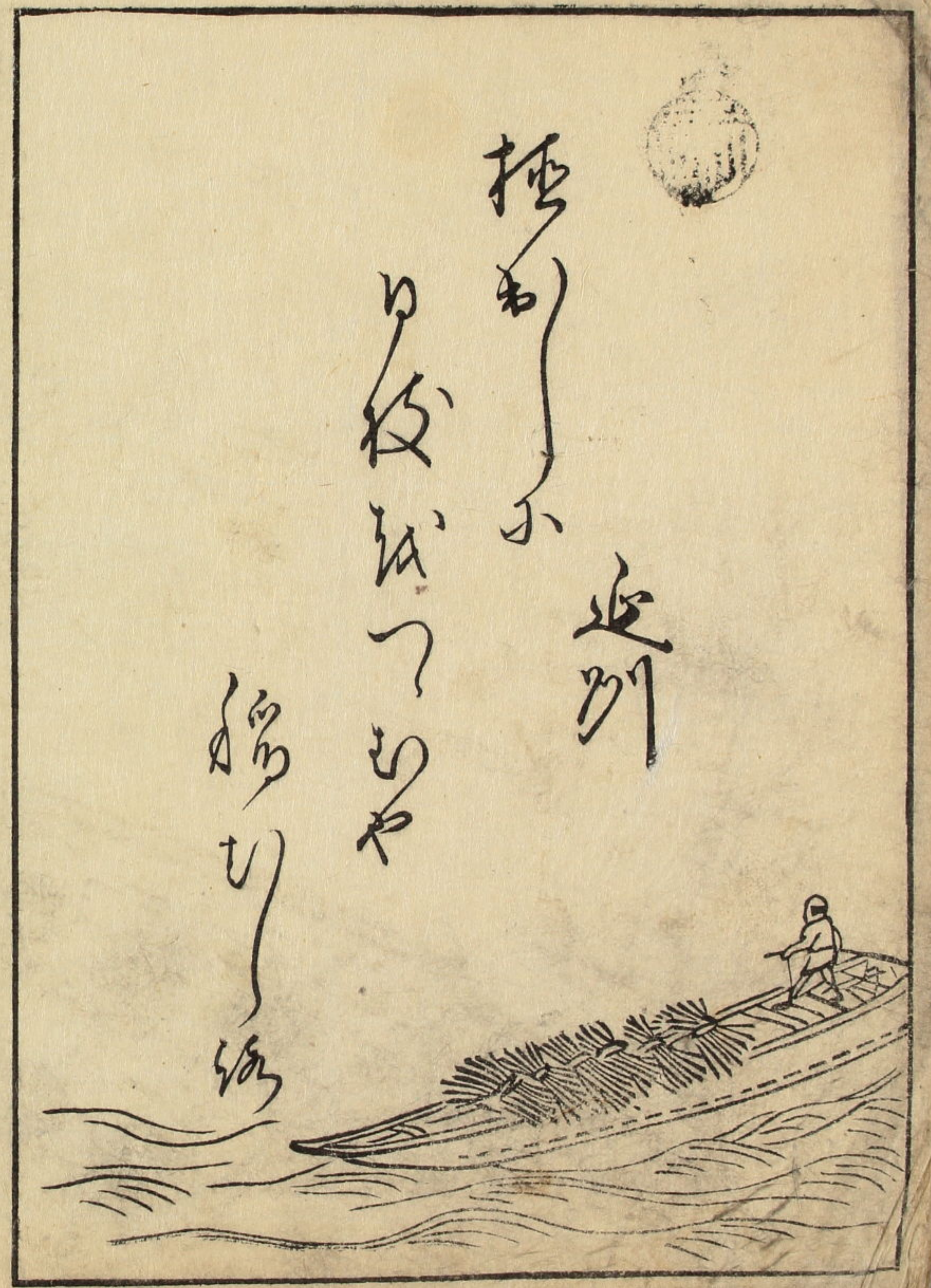
東





月夜の舟
 舟とて舟
 舟とて舟

子孫



極小
 近別

舟とて舟

舟とて舟



昆陽 里本館

白眉

白眉

あふん

あふん

あふん

一八や

あふん



梅友や

借れ

梅友や

新刊

の

播州姫府不滞園

能移

自画



猿
沢の

名紙

自画

少々

大川 名紙

吉野市

山村和輔



いも 云々

一人 首

桑山子

日影寺 檀并軒

風鳴

ツル

かがみ
あふ山子

多クトニコト



風中の



異心さし目も

テ
出たて

熊野本元

異心鳥

陣扇



杓脊巾

子周

羊瓢舎

昔

者

爪

之

熊野本元

川瀬白画

世
杓脊巾

昔

爪

ツメ



有馬
 三徳
 吹方へ
 心と出ぬれ
 本意あり



雷茶
 時を待てる
 鉄砲丸
 けさや
 三日
 の海
 海
 海
 海



品玉此
 程も
 の
 栄谷青水



有馬山口
 栄十
 龍宮此
 引意
 阿
 汝干うか

又月未はより
 病は依て悩む
 久しき病を
 免るるよし
 ふと候は候氣を
 候



立るる花は

齡や 菊の池

兵庫

芦月

兵庫
 蕙洲

水香や

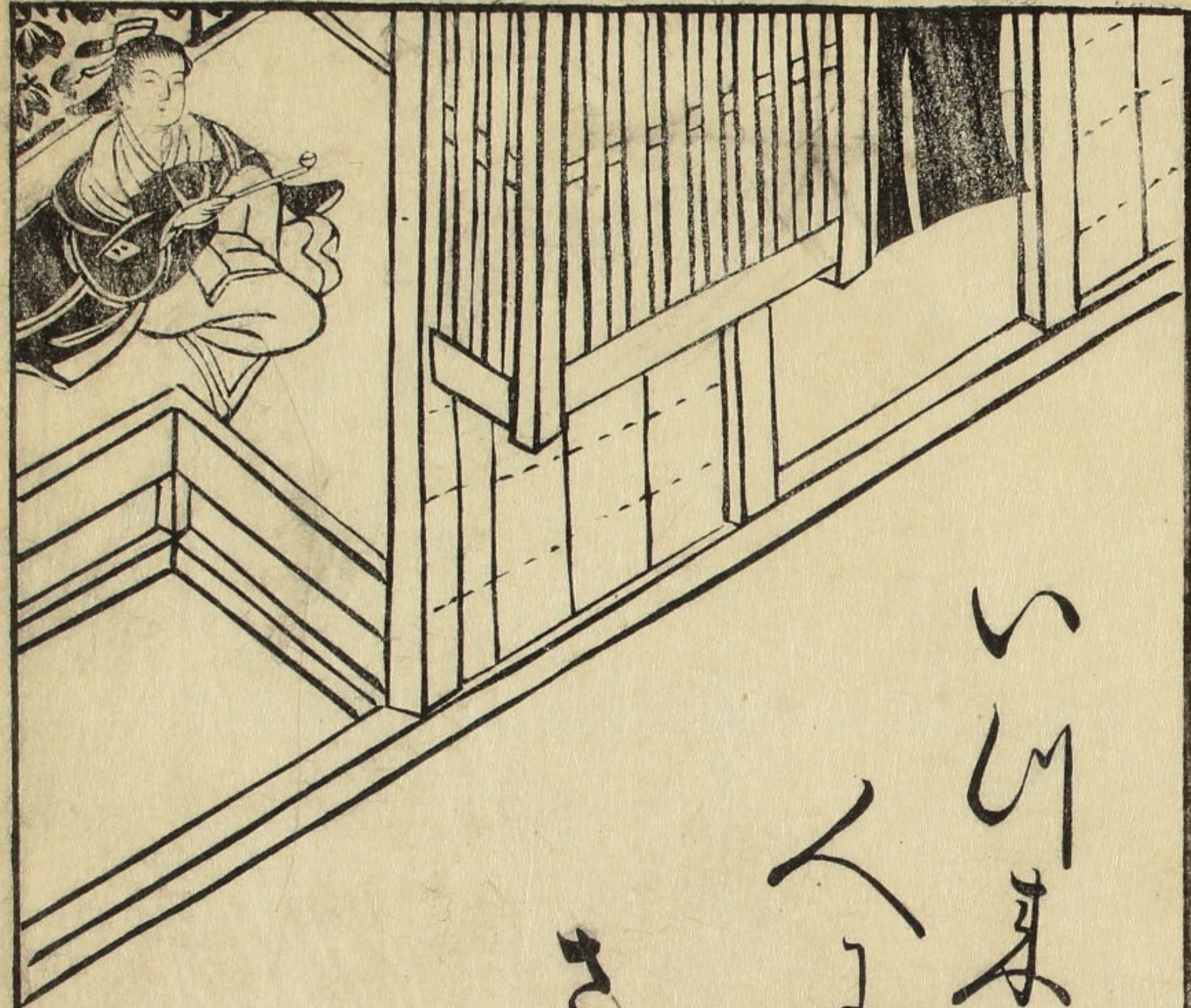
好ふ

ふハ

里は

へ





いひまて毛

人よ

飽はの

さくす

兵庫

二林兄

アカズ



已うま

まのや

源一丸

竹の

庭

兵庫

中乙

咲花此

夕アヤ

樹の

はまもて

兵庫麦飯改
木羽



日よ

あて

志ろき歯

見せん

名花

兵庫洋

鳳子





此を以て
 仲留を以て也

石丈庵

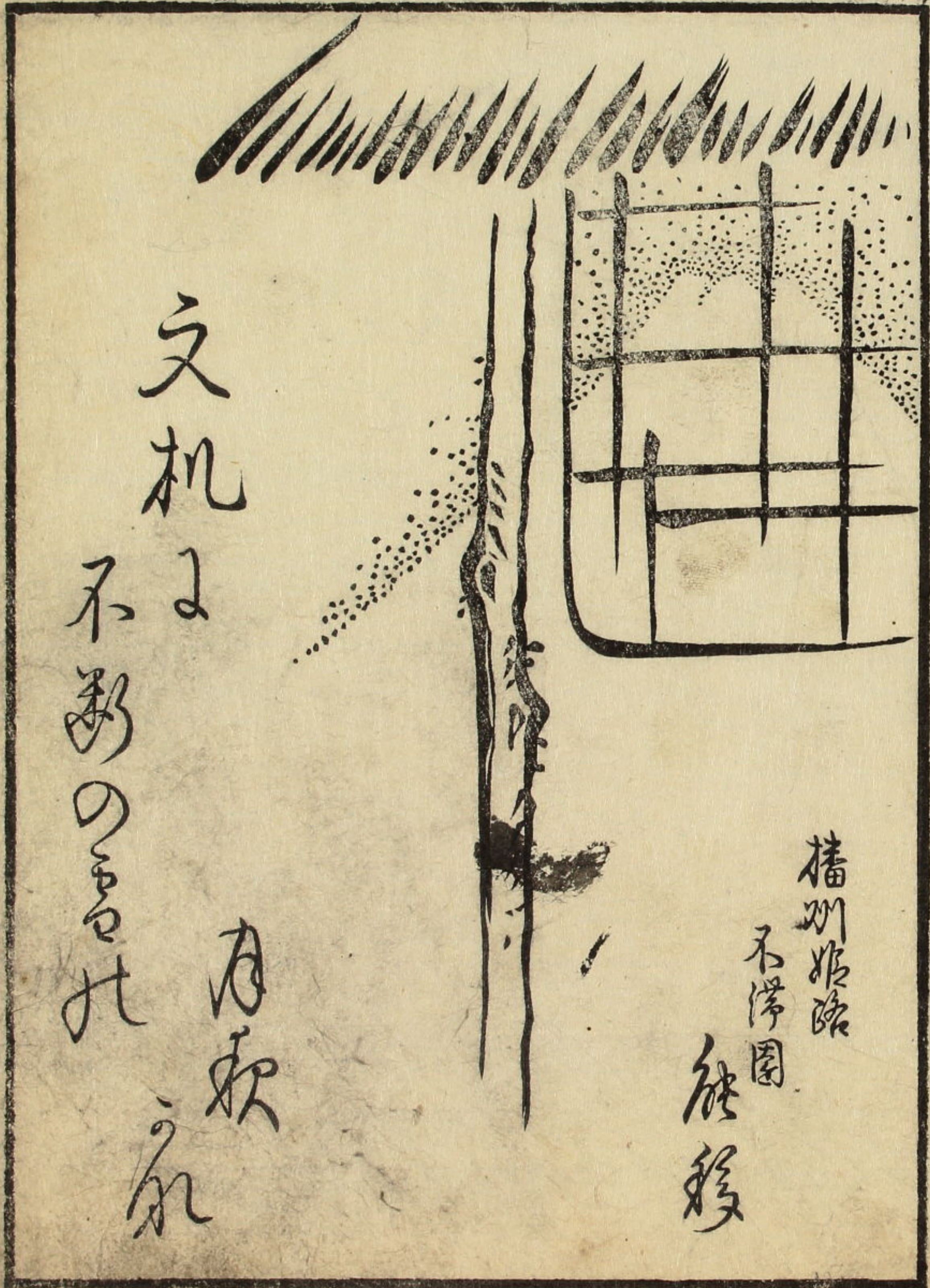
春の海
 求花



手に
 引いて
 見れば
 色の
 まゝ

兵庫
 洞合





文机よ

不器のきり

有秋

のれ

播州姫路
不器園
能後



白露や

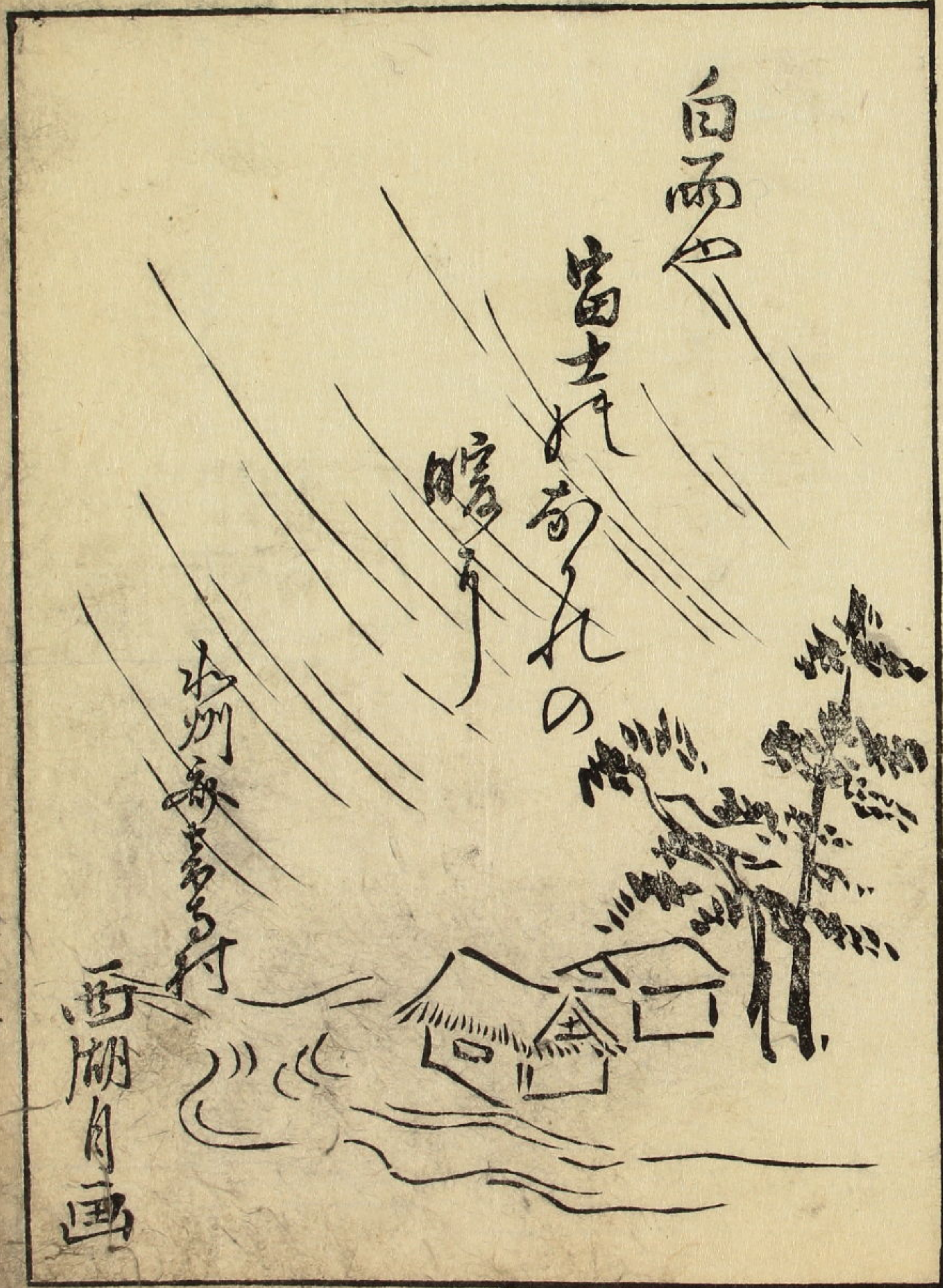
お新れよきん

世の音思地

寒風

播州姫路

丹頂堂



白雨

富士の
影

影

水州新巻村

西湖月画



榮花のまろく哉
控うしれあを

月下橋

涅槃

舎や

佛の

なり

初

初

文風



孟蘭盆や

さう

地獄の

下

下



椿阿自画

初しきる

運もはくし

築雲花

平野

都紫



卯丸

花や

うづらの

音

うづら

都賀

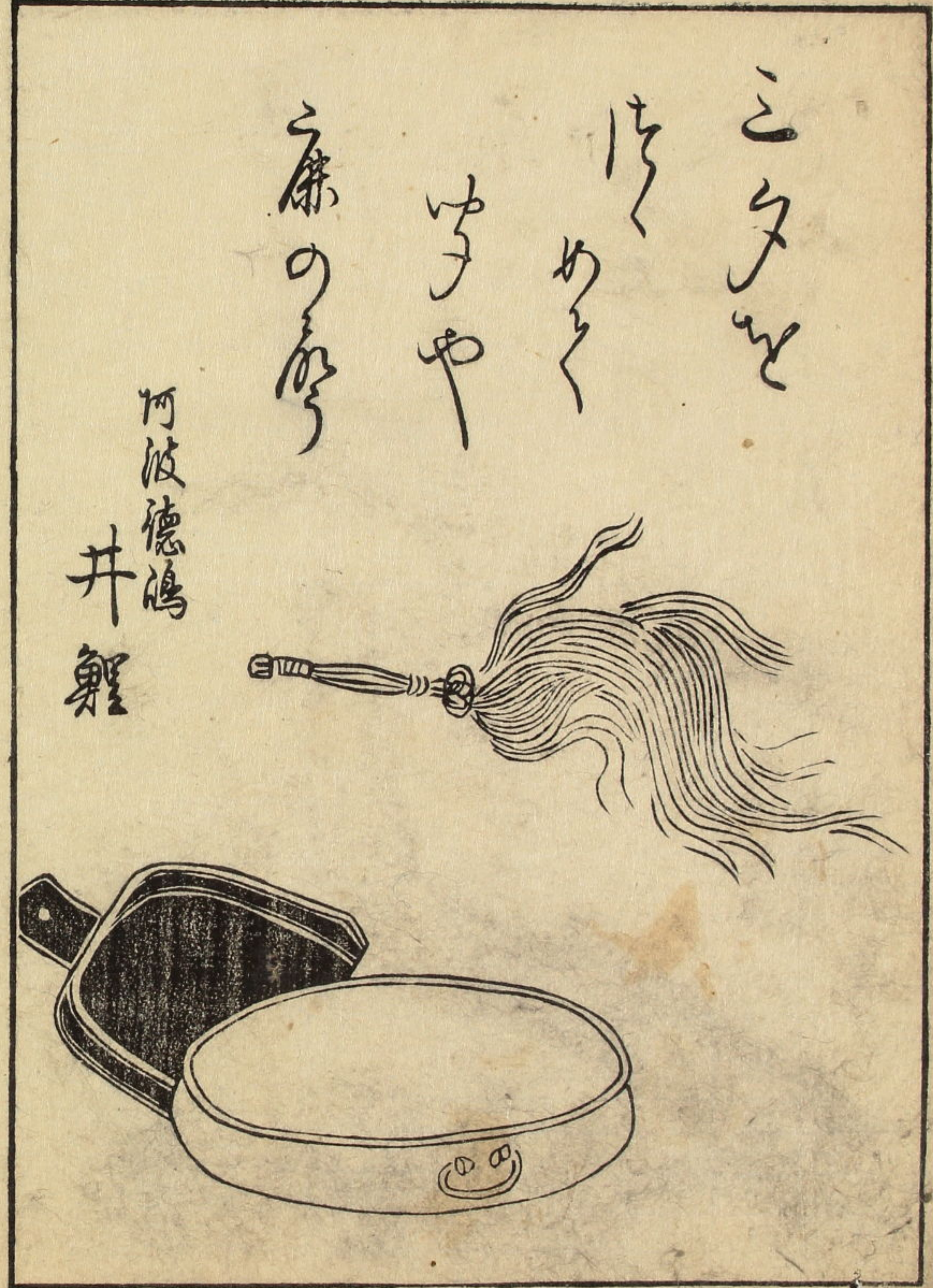
竹比





馬と
 飛て
 とせれ
 さくか

阿波徳嶋
 如尉及
 潮嵐



之夕也
 けく
 めく
 中子や
 麻の序

阿波徳嶋
 井
 躰

葛裏

一係

安よ

冊や

く

百泉

阿波徳傳



流新

中

後れ

への

初嵐

南湖

阿波徳傳



阿波徳橋

古角

沢船中

討り

うねの

平家

方



平家カムロ

阿波徳橋

雲哉

獨力麻ハ

売り

新々

室さうか





故郷の

水

可

運

灘

松

潭水手画



あゝあゝ

庭

行

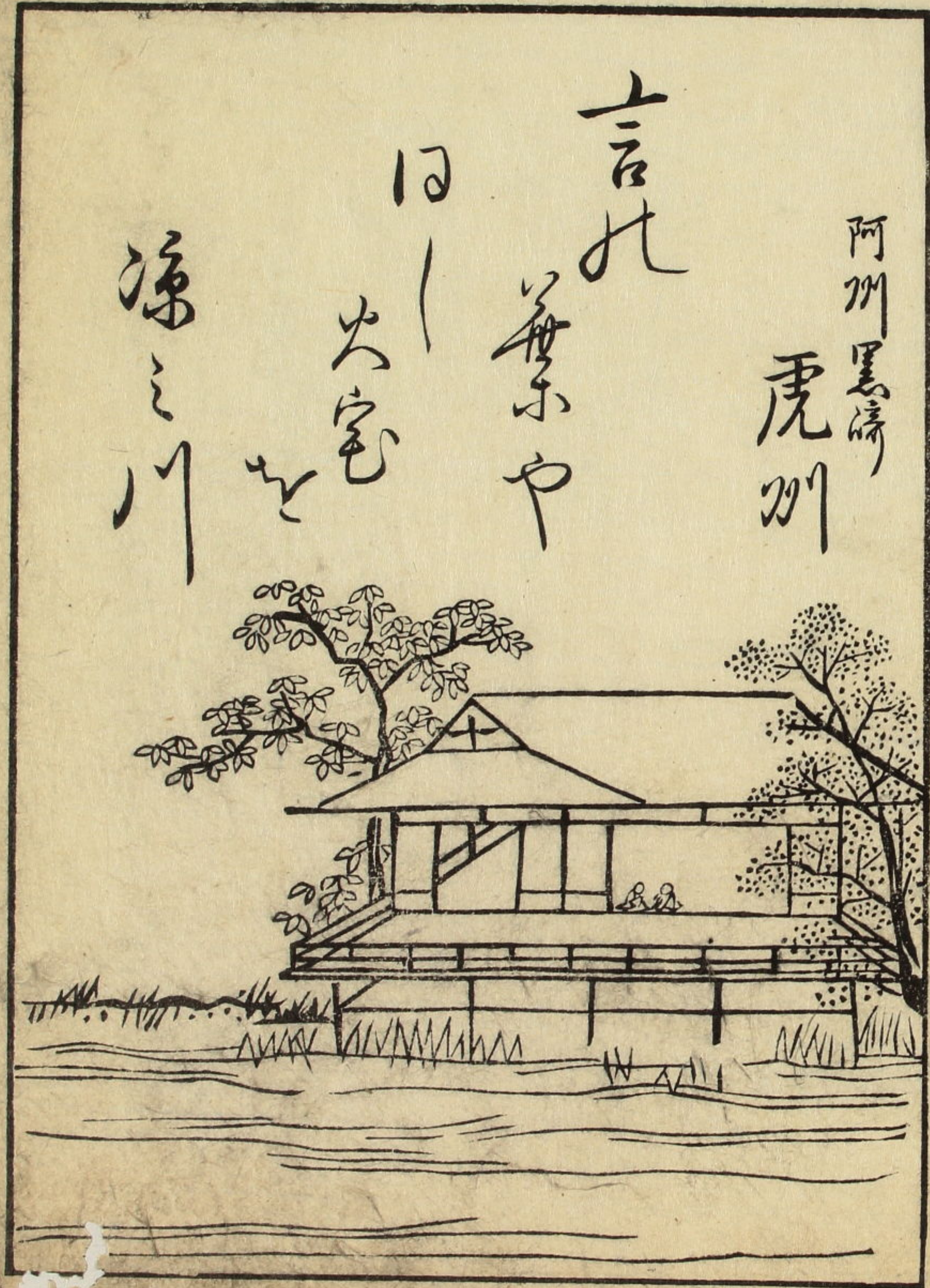
秣

春

梅洞

午

秣



世人柳石場と唱ふる事と云龜年中
 播州画橋の底よりけ冠波津より移轉
 せり今此ところよりわし小境内二十余方
 佛殿及び七堂草庵と云へり寺堂あり
 石舎池あり池の邊りに柳樹一株ありけ
 樹より正号と云は世傳をたせり今に
 至り百八十余年也後して是も此兵
 乱より一字も跡なく燒失しぬ是年此
 樹を待濟し今此所は草庵を中真
 寺の寺と云は月經又法眼宗典

百回忌ありは是れ一系に延福一平

コワレヌ

堂々
とあり

風茂

堂々や

以堂柳

故柳庵





宇治橋や

乳房と

おろし

産う那

多鳥敵

金溪



川竹の

道と

物と

堂

うん

蘭若



三十五



橋杭よ

風の

うけさる

さくさく

淡洲須本

指月

名月や

おぼれて掃く

阿け北陸

淡洲須本

雨山



清州改本

解雲彦

初雪也

志

小物也

乳

離生



茄栗也

小神也

う

丸裸

清州改本

周蔭





世に周を

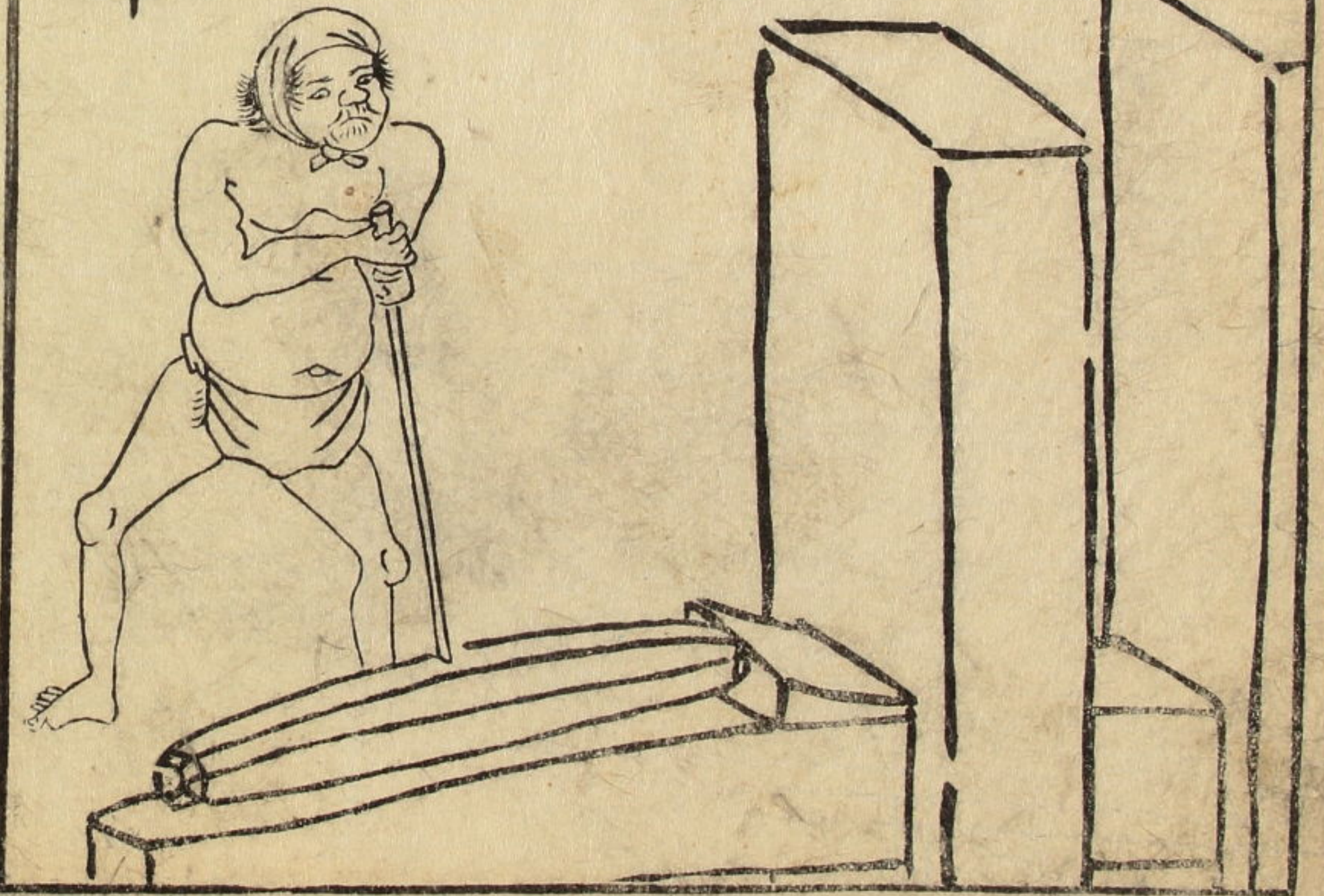
照

むらや

高菜の花

淡州福良外改

雲浦



淡州福良

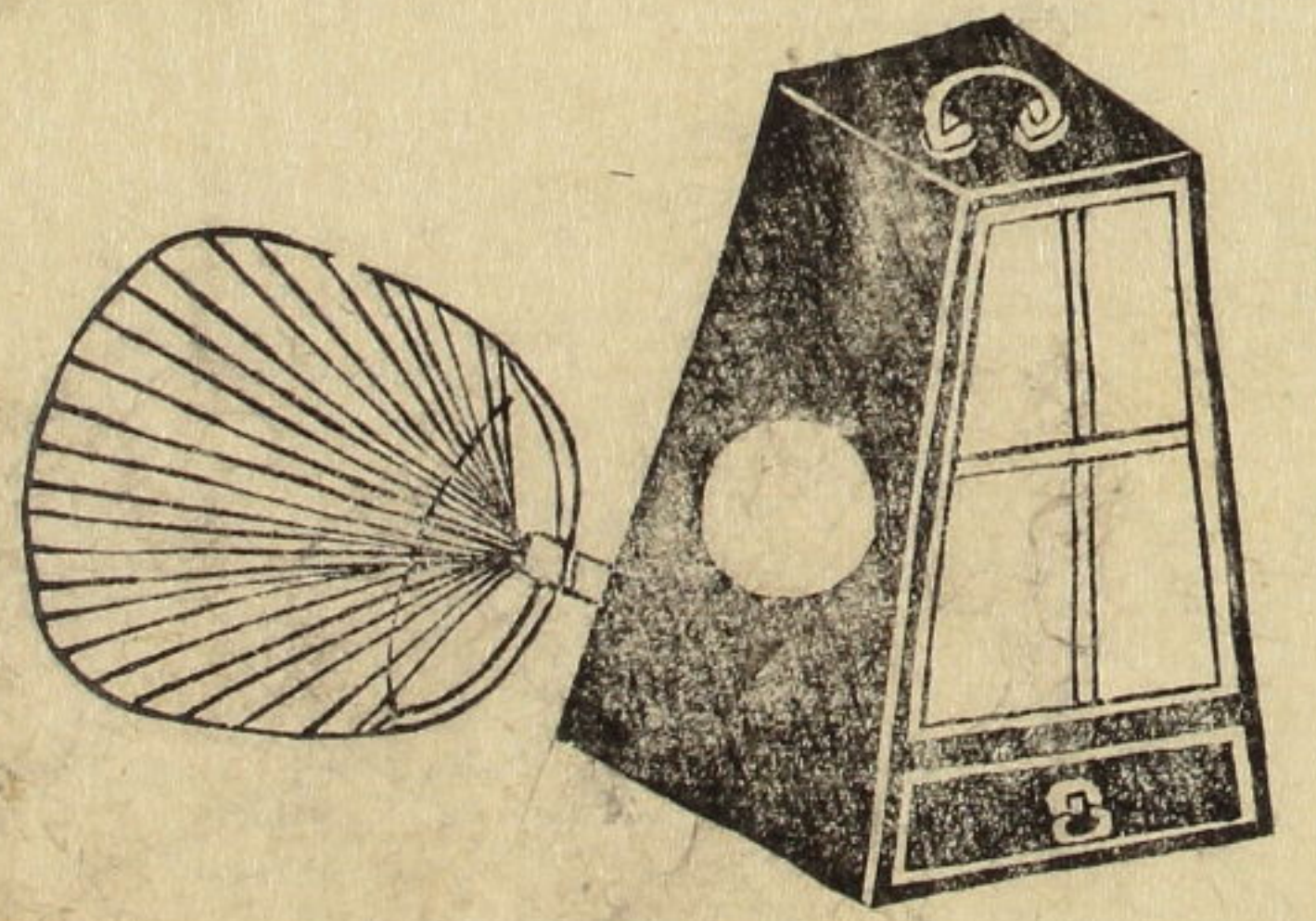
芦仙

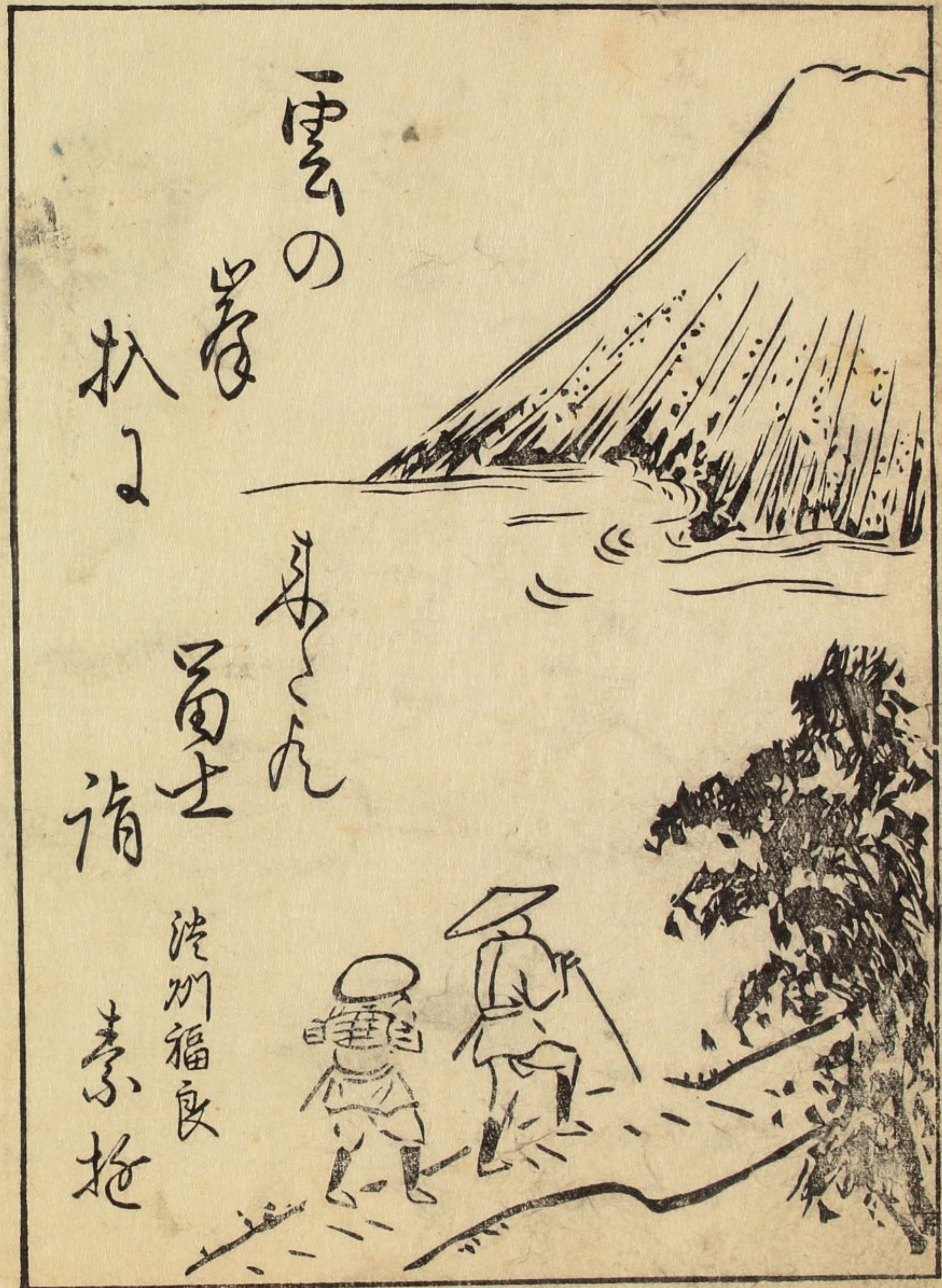
夕立よ

あしや

赤耳丸

水車





三ノメ

あさかぢや

まじ

東雲

よ

あ〜れ

京

淡州福良本琴亭

蘭水



ハタニウミツナリ

セタウ

横江

好

足乃

透夜

うす

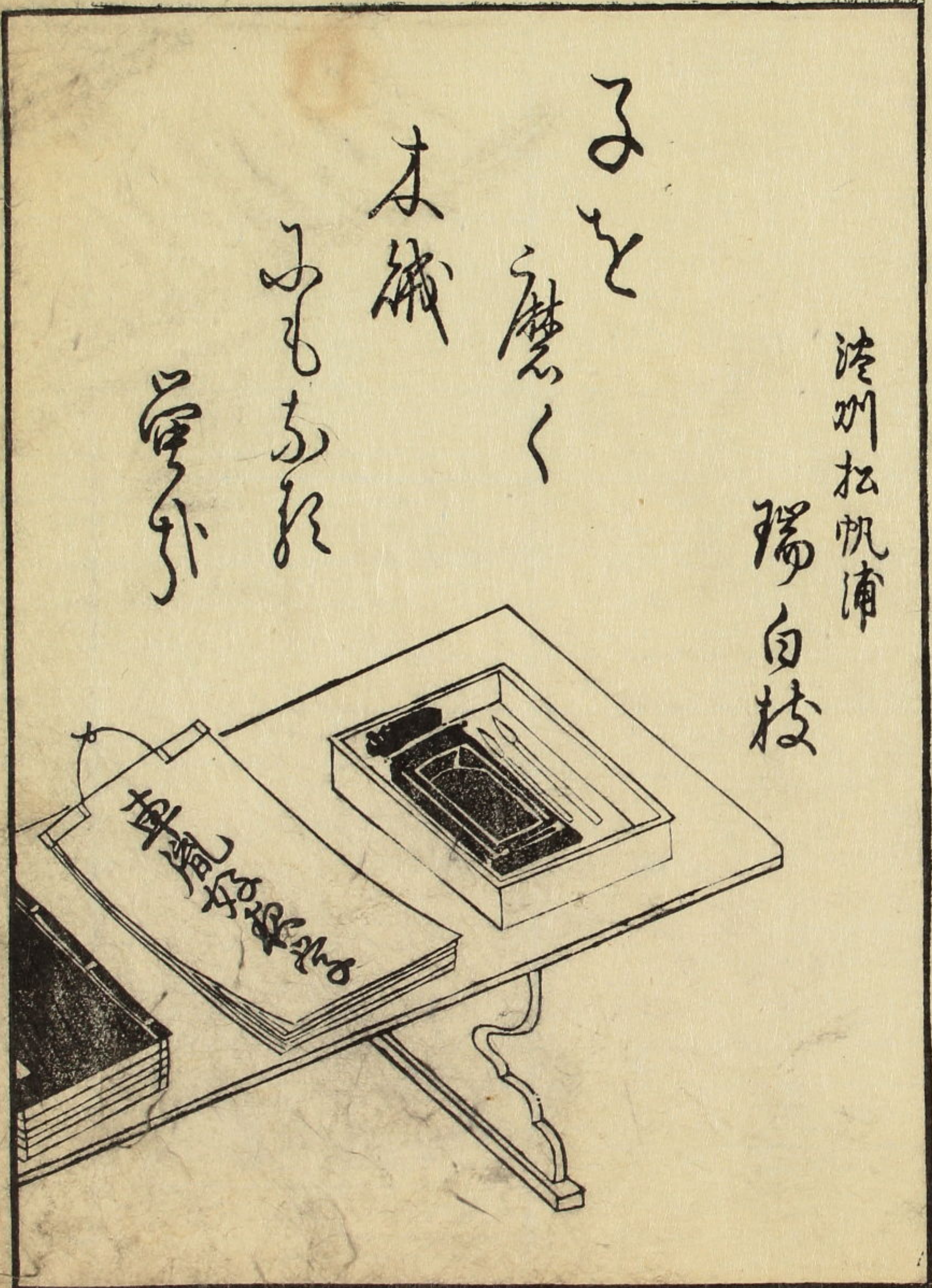


唐栗桑

予自画



下三十三



三カシ

(三カシ)

(三カシ)



澁州七川
春橋



おこかりや湯初蒸初蒸久初南水

淡州松田

天レ



山寺丸

豆くちや

納豆汁

白井收里

淡州三原郡松帆浦

夕クマ



下三十五



三十四





あはれ
あはれ

あの人

あはれ

あはれ

あはれ



あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

香毛

香毛

かんの

えいふ

や

水仙花



露草

ヒツロウリ

しらべ

あや

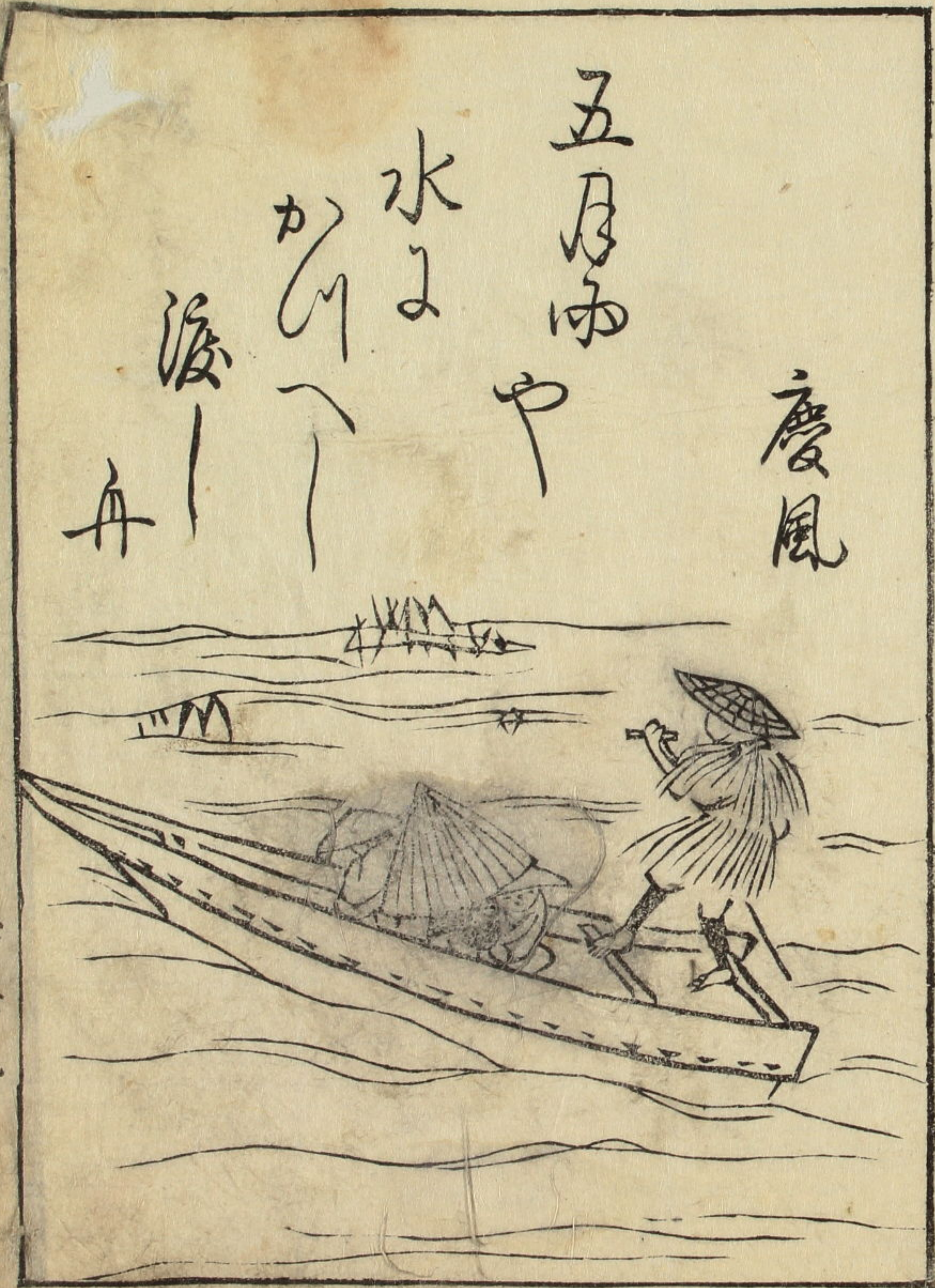
か



印

の路

應律



五月雨
水よ
か
浪
舟
慶風

カニメレヤ



おとと吹
なまら姑
おの
園
舟
和彌
自魚

織殿へ

牛毛

森小

ゆく

今宵の月

西嶺中娘邑致雲舟
之櫛



十三夜

市書て室八

後北

月夜外 作友阿丘





山
滑
水
峰

月
納
涼
の
如

西
嶺
大
神
系

千
峰



明
方
ハ

舟
よ
り

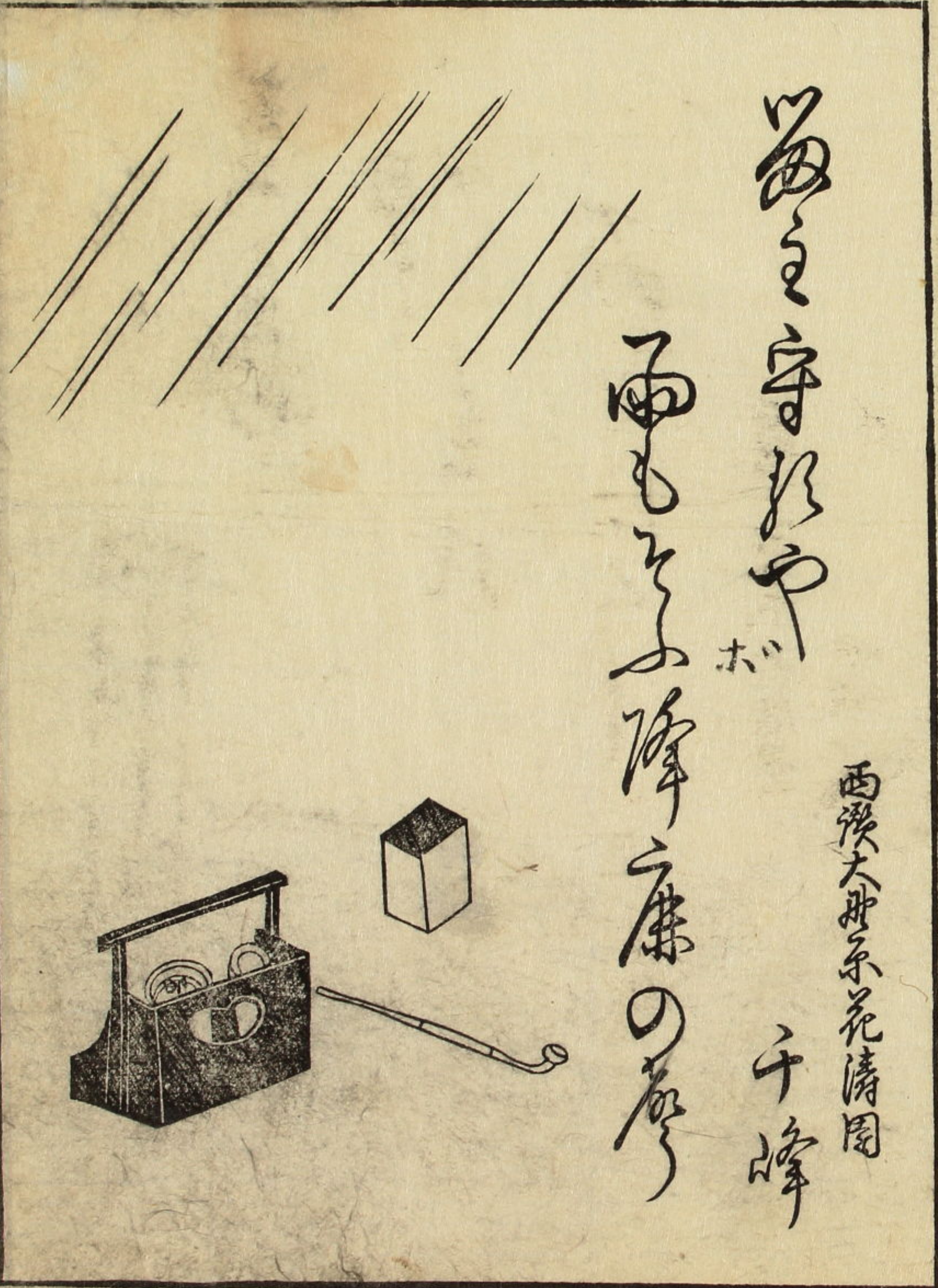
屋
内

敷
き
の
外

西
嶺
中
娘
邑

豊
川





海を守るや

雨もその降る声

ホ

西渡大冊系花清園

千峰



蒼々や

月

雲

みとけ

西渡大冊系研沼堂

古石

端午

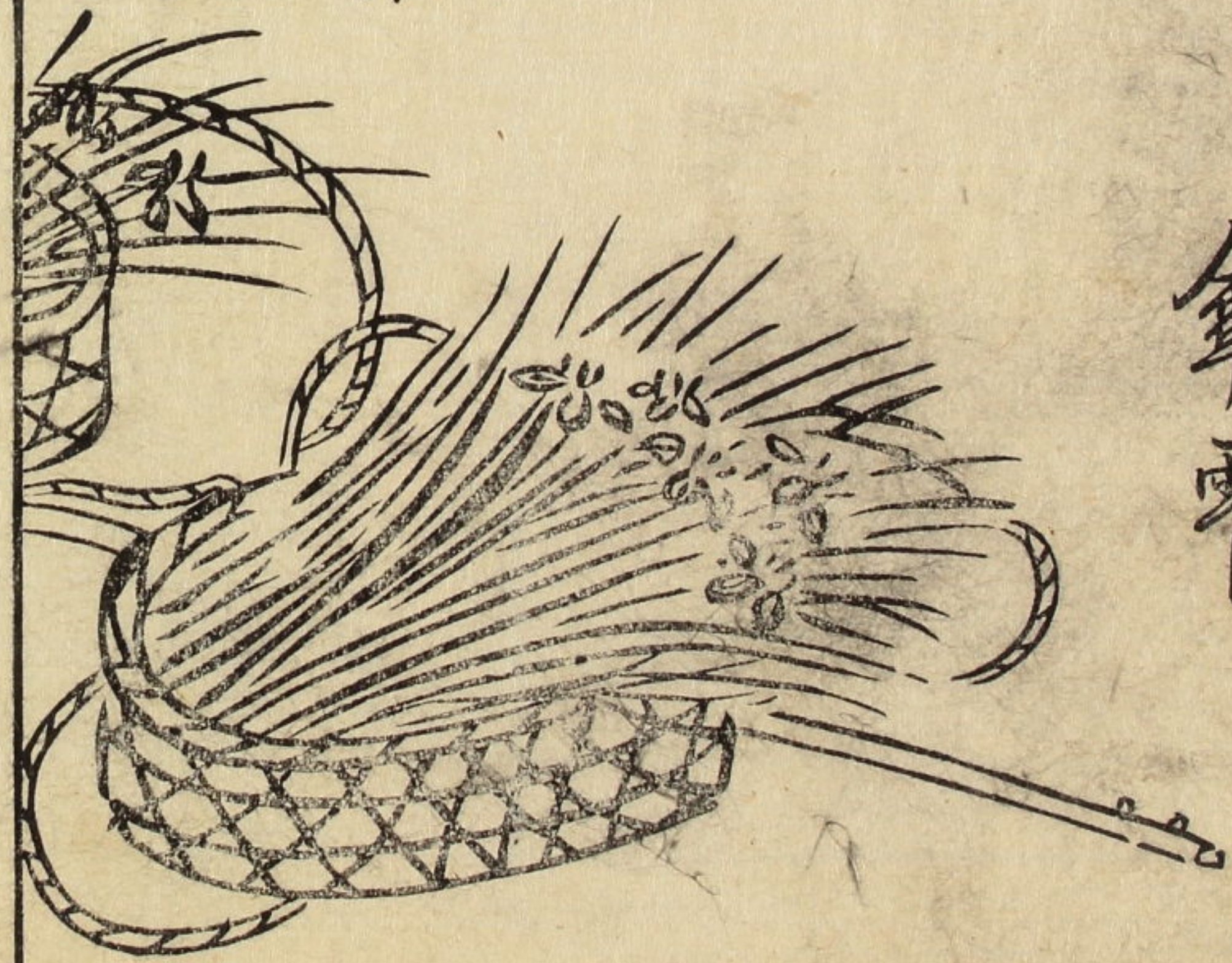
菖月アサギののど

栞シロとふ

夢ユメとぬ

昔キナ日ヒ蒲ヤシか

傘カサ栗クリ



呼ヨりリヤク

猫ネコ意イ

素ソ流リウ

叫コエのノおおと

ままけけふふや

猫ネコのノ書カキ



枇杷

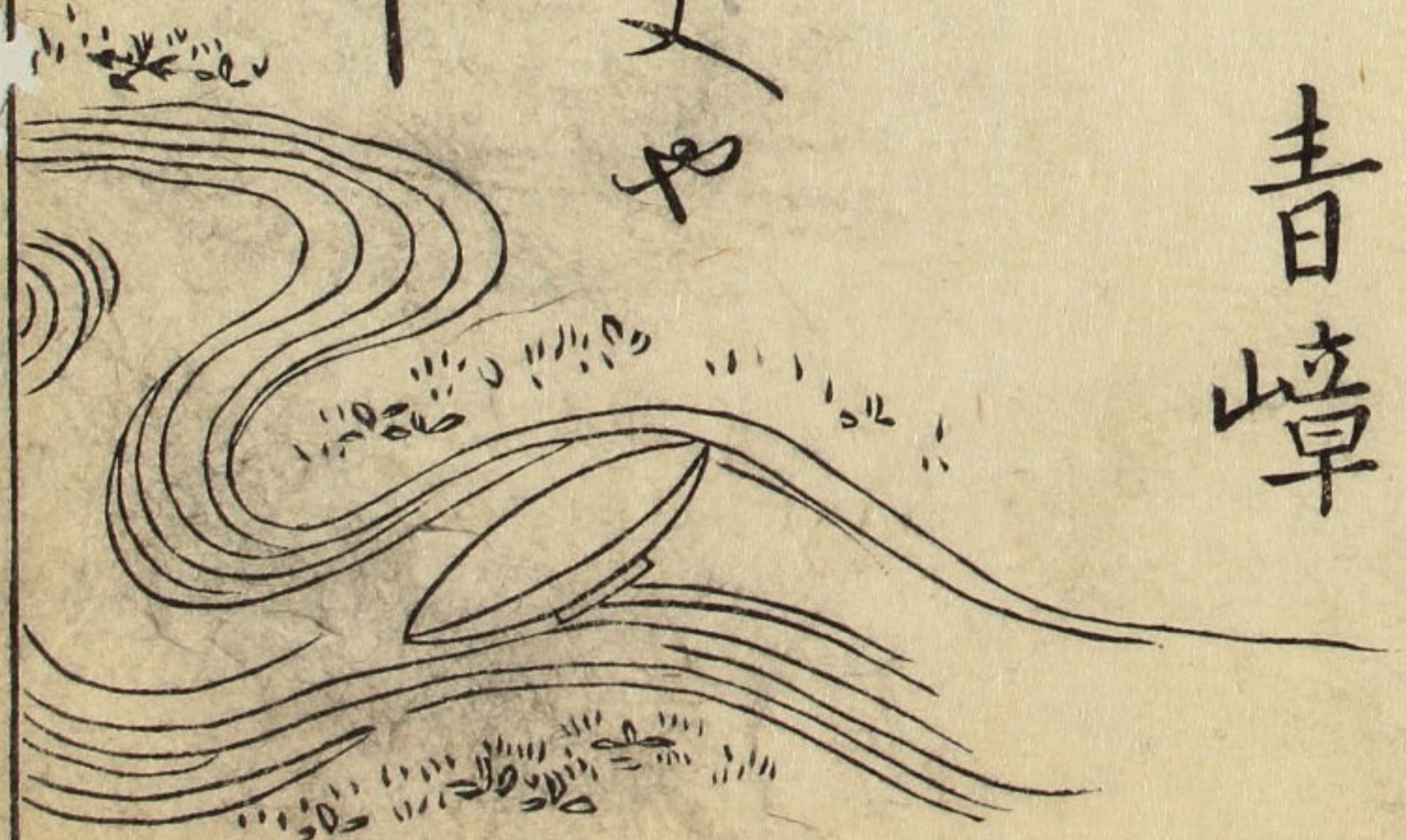
雛

如史也

手ぬ

桃節

青嶂



難波屋の

傘よきなり

霞の那

李橋





森鴉人之怪之伸之拵引
山崎亭
 路栓

伸之引
 山崎亭



伸之引
 山崎亭
 路栓

山崎亭

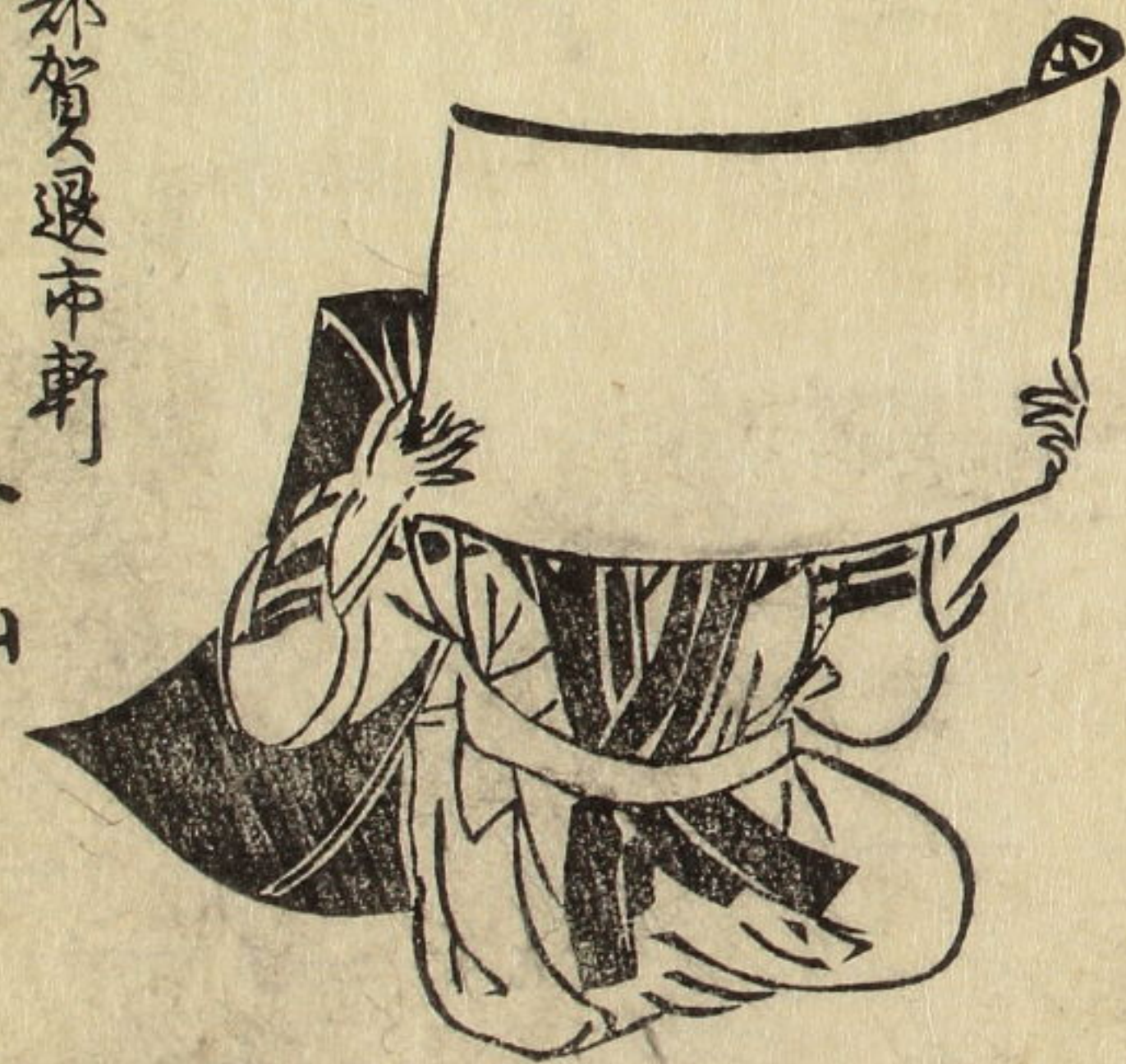


ツボミ
蒼

白
見世
や
之字
れ
中よ
蒼梅

都賀退市軒

五仙



中解

花ハ

藤ノ肌

都賀

竹比



五仙



え日や清小八持うぬ持橋守

河別佐太琴川段
伏見山室

鰯天

東葉



かなふ急

雨よ

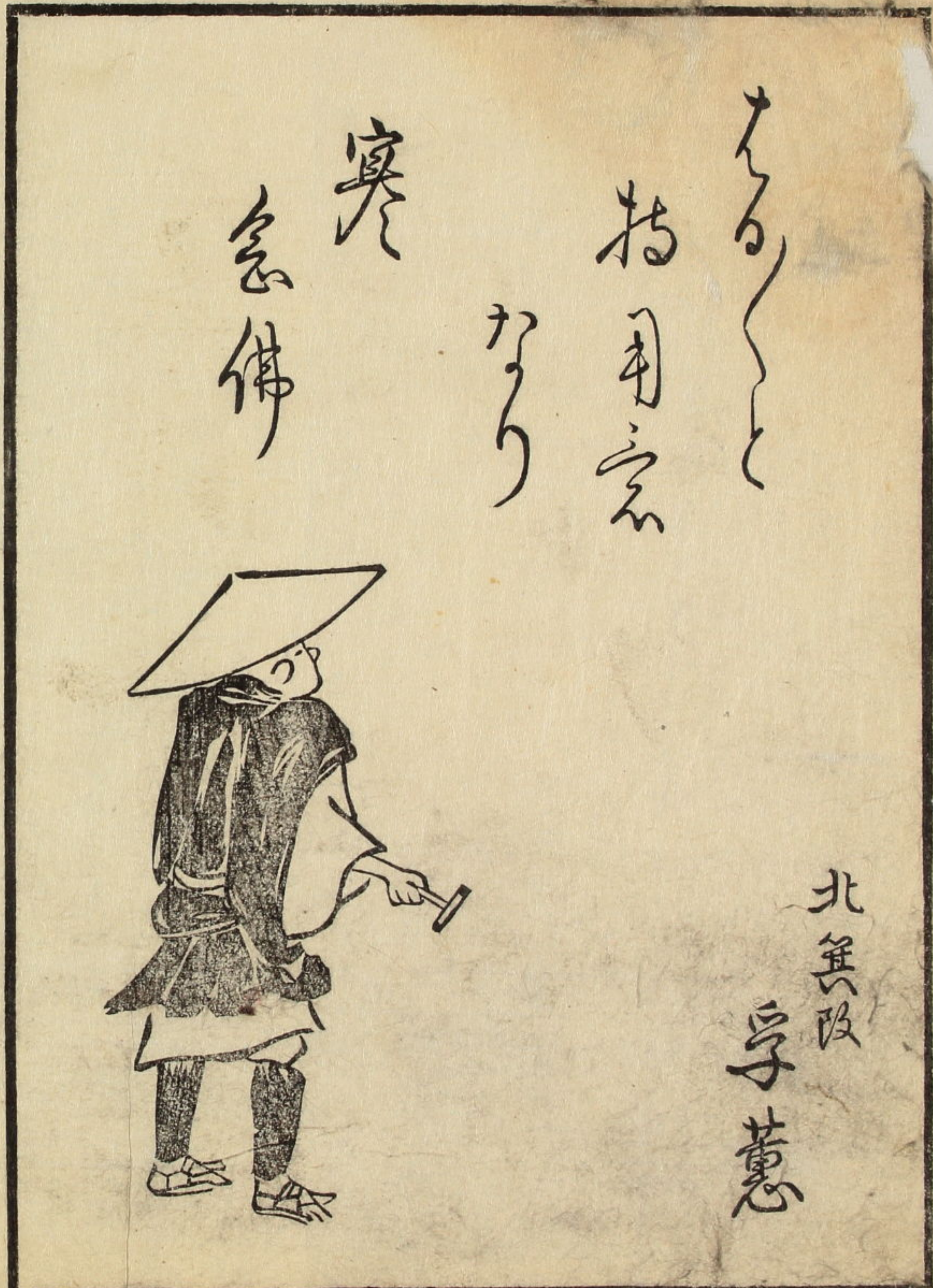
あゝれ糸

峯一の麻

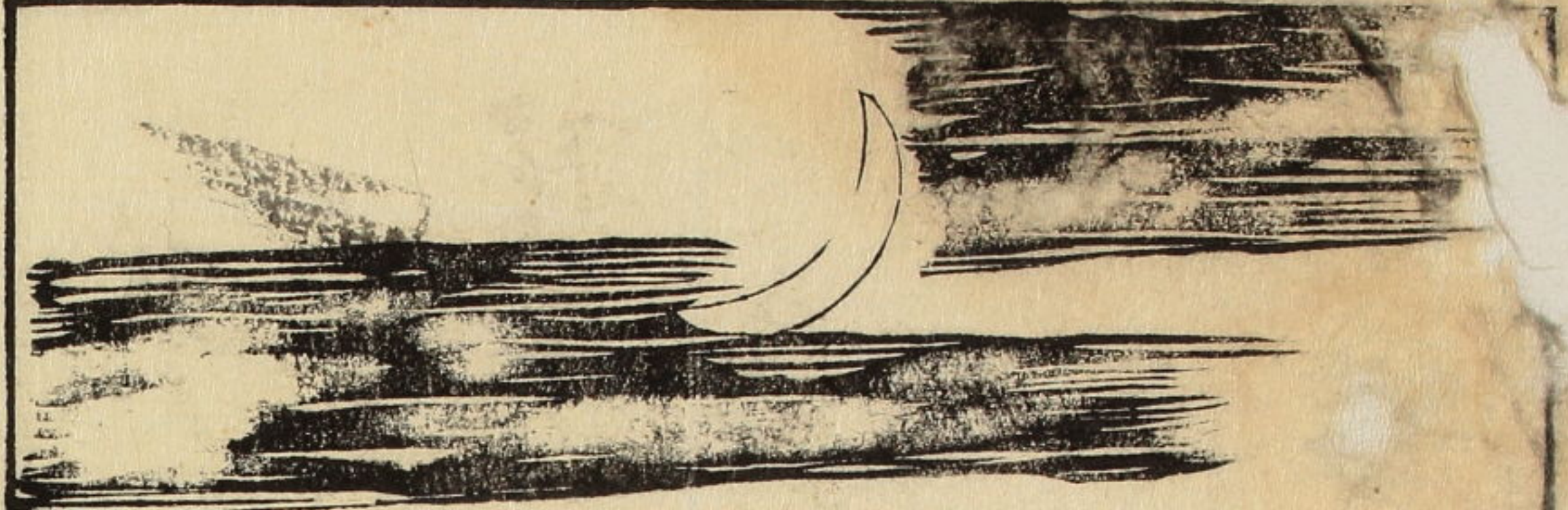
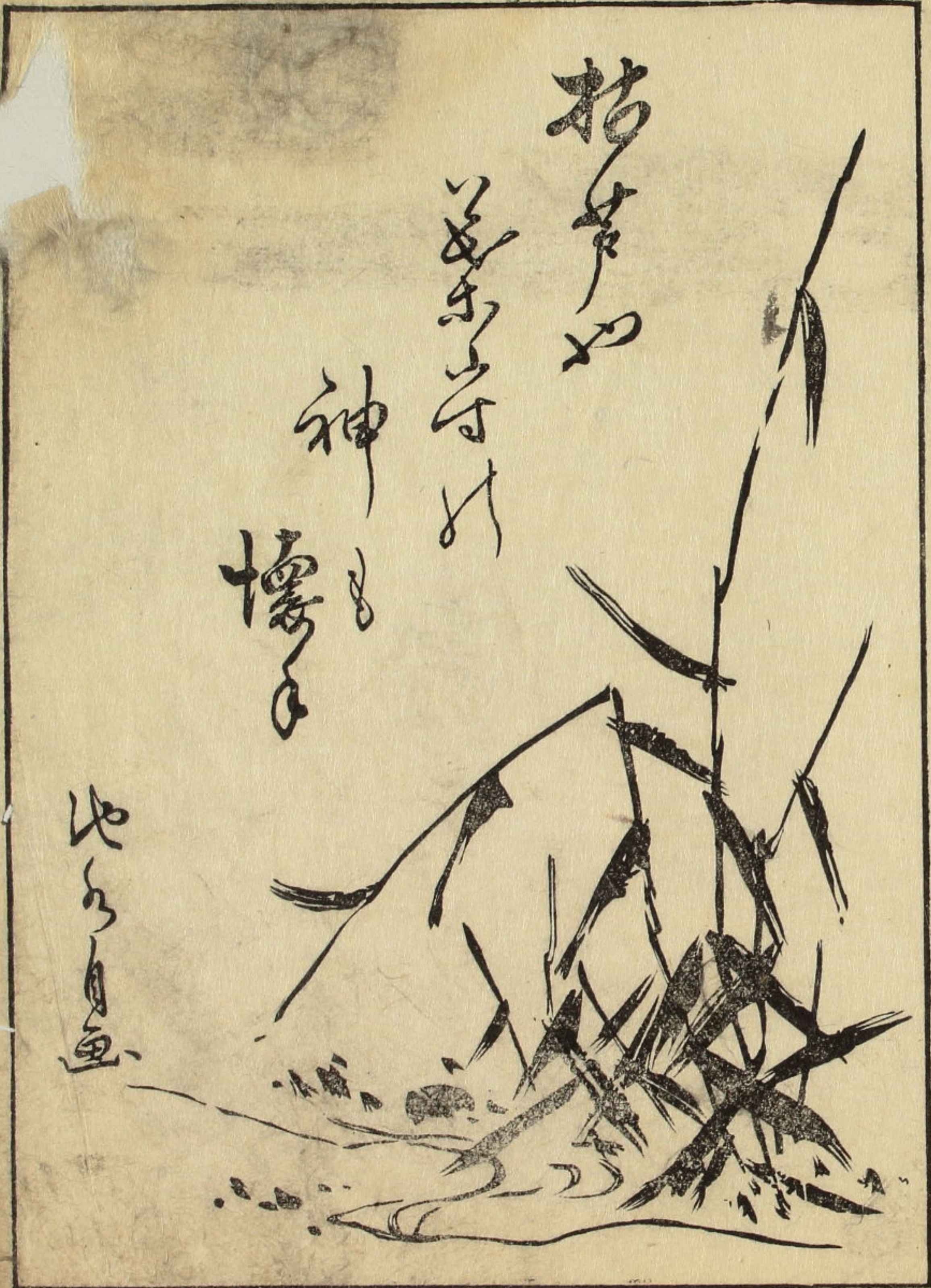
南都

慶鼓

西葉



懐
不
日



月
弓
丸
箭
矢
た
り
き
り
郭
云
武
庫
山
下
丹
頂
館
秋
房

妻待也

稻美子

此

夕化

酉宮

都牛



細引ハ

甘此

酉宮

仙橋

女

也

云

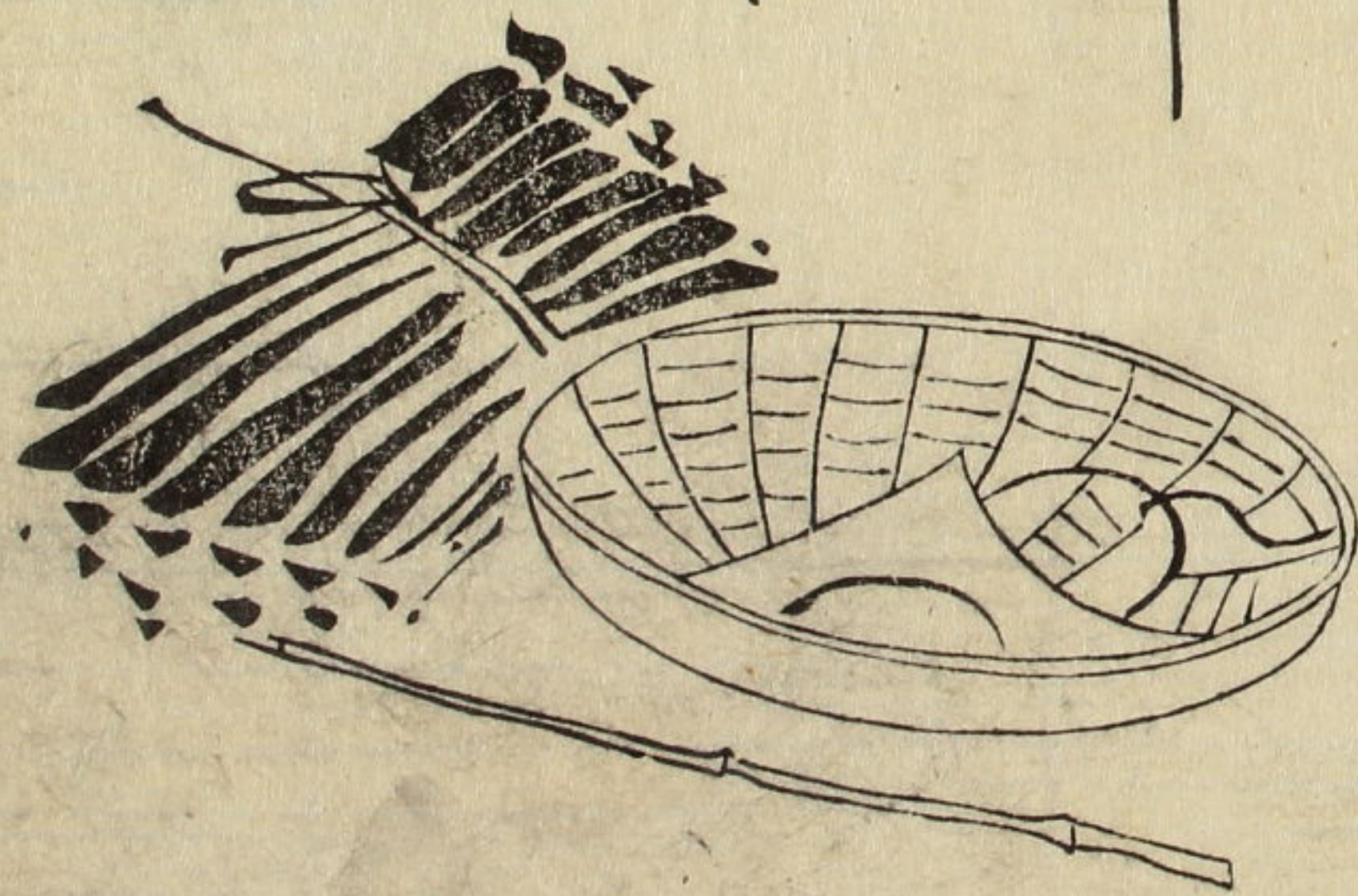
月

干

小原女を

笠
吹

冬ふゆを



陸奥白田

ノ
ミ
カ
リ

三ツ口
船新や

美濃の
川色丸

明海

ノ
ミ
カ
リ

西宮林鳥段

布櫛



竹一花

竹八

深木

此

落葉外

西宮五笑軒

漁翁



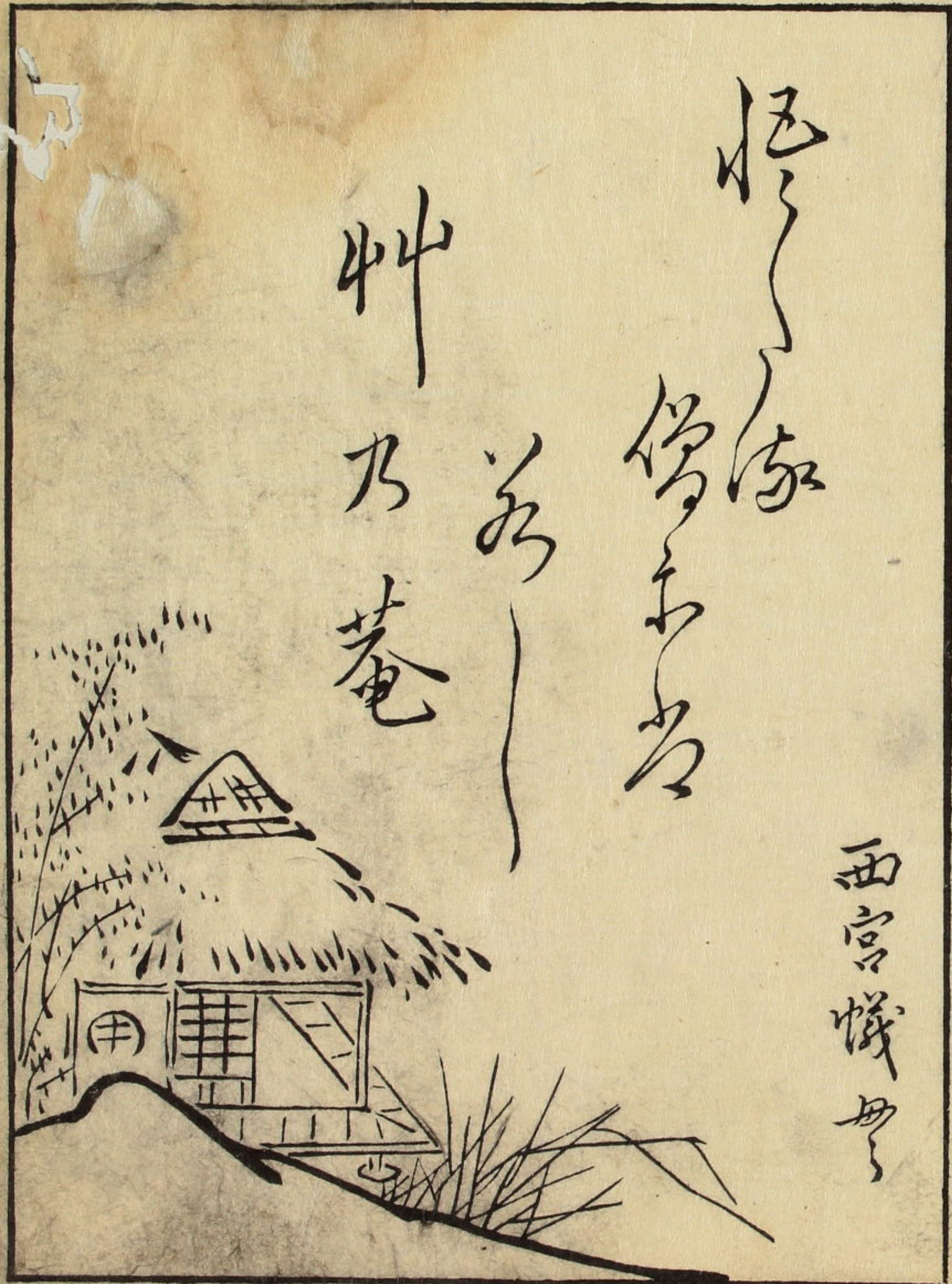
少年
鳳丘画

西宮魚住

秀乃麻

致書り火巾
煙八周へ





中乃菴

一

北家
保家

西宮様

カトシ



戸袋

日

深

西宮

一

下五十三

撥子



枯風

撥子と落し

曲太鼓

子周

徳野本元半瓢舎

五五五

初秋

あんなたまの舟出人



養波自田



五五五



梅咲や棠ハ 故光
二階の書院先

五十五



市月洞 其然
明き山や
雛
小ハ
桃
花のまき

招

五十五



下五十七



下五十八



船川
 文扇
 世の人れ
 惚
 松や
 練
 烘書

流
 何所の
 暑さ
 瓜れ皮
 中之城
 南畝

桃節

桃の日や

さくら

桜
花

傘系



風中

牛山

はまなは

松の
る

鯉川

桃紅





初雪也

春は其のえゆり

江別海津如蒙段
如泉



馬の

牛

たうり

おり

錦

江別海津

一枝



いり栗や
 内心
 葉の蔭
 外面
 鬼

巴田



苦熱

動くもの
 周をうり

柳
 乾し

東江閣
 竹石



流るゝ
 又路方
 白雨此
 柳
 之氣

五川

三十一



甘く
 あら
 し
 此

大福茶

肉線

三十一

水底へ
 届く
 鴨の足
 雙魚画



4110

か
 雑波れ
 波の音
 植
 沖





名月や

酒杯と茶盃

持て去ぬ

藤光館

巻二

投

アコウ見の...

通照

投...

...

春旭



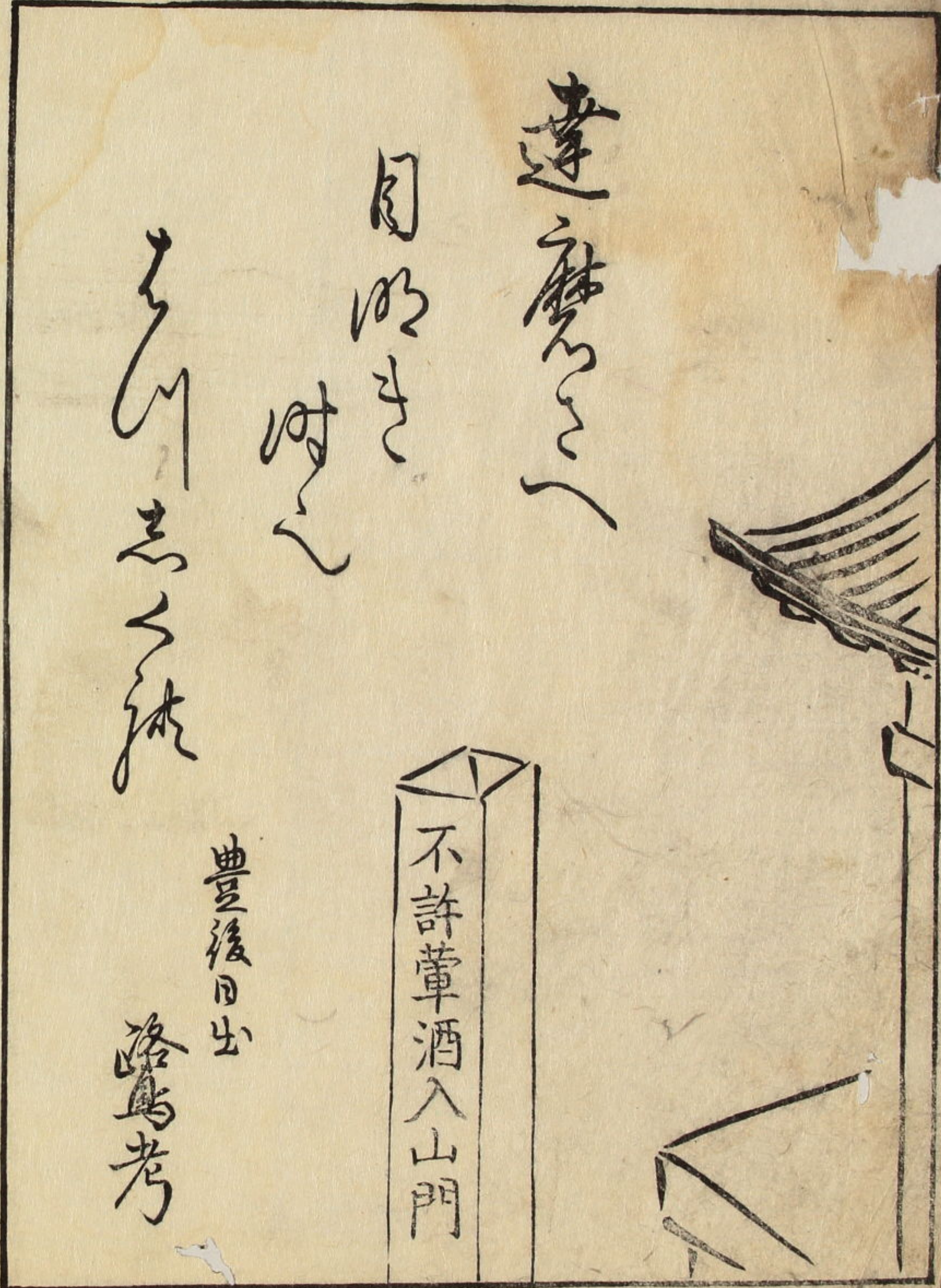


溝中
あまの
桜の

鏡
の
事

方
繁

溝
中



達
磨
の
入

目
明
き

時
し

ま
の
志
の
鏡

不許葦酒入山門

豊後日出

路
鳥
考

藉鞭之餘 菑黃揭車於草 榘
 楠豫章於木 形殊而色異也
 非品非圖 則何以瞭臭味於
 指掌之間 擇而不精 語而不
 詳 則安在子品之圖之也 諧
 之爲道也 尚矣 作者徃々流
 徵刻羽形殊而色異也 不啻

仲殊

清光

名有や新

おまひ

むーの

婆東



若菑萑揭車榘楠豫章於草
木而已歆驅諸一赭鞭其難
哉其然氏雄于諧者也嘗摘
諸家之英疏之品繫之圖能
精且詳勒爲一編問名於所
謂師者師曰赭鞭以臨哉既
已名之亦冠之以言波及予

予曰我也不敏於諧寧贅乎
將冗乎其何言之有

蜜曆丁丑冬

武田宴山識

